

第4回 防衛施設整備に関する有識者会議 議 事 概 要

1 日時等

- (1) 日 時：平成31年3月19日（火）13時15分～14時45分
- (2) 場 所：防衛省庁舎D棟7階第1会議室
- (3) 出席者：

【委員】

- 藤井 聡 （京都大学大学院工学研究科教授） [会長]
- 上野 武 （千葉大学大学院工学研究院教授） [会長代理]
- 谷口 綾子 （筑波大学大学院システム情報工学研究科准教授）
- 成田 一郎 （（公社）日本ファシリティマネジメント協会専務理事）
- 横田 弘 （北海道大学大学院工学研究院教授）

【防衛省】

大臣官房施設監、施設整備官、施設技術管理官、
施設政策室長、契約制度企画室長、防護施設研究室長、設計技術室長、
施設計画課企画調整官、施設技術管理官付技術渉外官

2 議 題

- (1) 防衛施設整備へのPPP/PFI手法の導入
- (2) ライフラインの能力発揮のための整備基準（その2）

3 議事概要

- (1) 防衛施設整備へのPPP/PFI手法の導入（議題（1））について、防衛省から説明した後、討議を実施。
- (2) ライフラインの能力発揮のための整備基準（その2）（議題（2））について、防衛省から説明した後、討議を実施。

4 討議概要

- (1) 防衛施設整備へのPPP/PFI手法の導入について
(委員) 防衛省としてはPPP/PFI手法の導入は難しいが、今後も可能性を排除せずに検討していくことなど、防衛省の考え方がよく理解できた。今回の考え方は、防衛施設の整備の時にPFIを導入するかしないかを定める際の指針となるとの理解で良いか。
(防衛) 防衛施設の特性として、工期の制約、有事の対応、セキュリティなどを考慮する必要があり、PFI導入は2施設にとどまっている。このような防衛施設の特性を踏まえ、PFI導入について有識者も交えて議論、点検し、また、実際に導入を検討する各幕等の要求機関で参考にしてもらうために考え方を取りまとめた。
(委員) 防衛省の学校や病院に対するPPP/PFI手法の導入についてはどのように考えているか。

(防衛) 学校については、本部庁舎など大規模な施設の建て替えが既に進んでおり、現時点において、これから PFI の導入を検討する大規模な事業計画はないが、今後、老朽化が進んで大改修や建て替えが必要になったときは、それなりの規模の建物もあるので、そのようなものは PFI 導入の可能性を検討していく。セキュリティが一つの制約となるが、防衛大学校に関しては、教育機関であるため、収益事業も含めて比較的やりやすいと考える。

病院については、防衛医科大において、順次建て替え、大改修をしてきているところである。ただし、一般的に病院施設での PFI は、PFI が開始された当初は可能性のある分野としていくつか大きな事業をスタートしたと承知しているが、行政機関側で医療部門と管理部門が分かれていて、事業者との関係が通常の PFI よりも複雑になるため契約を途中で打ち切った例があるなど、病院としての PFI には課題があると承知している。防衛省における病院施設の PFI 導入については、そのような事例も参考にしながら、防衛医科大などの要求機関において、予算要求の際に決定していくことになる。

(委員) 防衛省においては PPP/PFI 手法は使いづらいということは理解できたが、PPP/PFI のメリットであるコスト削減といった目的以外に防衛省の場合は全く別の目的があってもいいのではないかと思う。例えば、住民の意識改革など別の評価軸でプラス面を、PFI を使って生み出していくなど、防衛省ならではのものがあのかなと思う。

(防衛) 計画する際に幅広く検討していきたいと思う。

(2) ライフラインの能力発揮のための整備基準 (その 2) について

(委員) 基地ごとのアセットマネジメントを行う際に客観的な指標が必要と思われる。LCC のほかに工事中のライフラインの一時停止による不具合などの指標も考えられるが、どのような更新計画を採用するか、次の戦略は考えているか。

(防衛) 基本検討の中で、老朽度、不具合の状況、運用中断などを調査し、実情に応じた LCC、アセットマネジメントを検討してまいりたい。

(委員) 僅かな時間の停電と人為的なミスが重なり、復旧に多大な時間を要した事例もあるので、防衛施設の場合、何か起こったら大変なことになるので、そこをリスク分析してはどうか。

(防衛) 自衛隊の場合は、基本的に長時間の停電などないように日頃から訓練し、管理している。一方、工事による不慮の事故等により長時間の停電などが考えられるので、それがないように工事計画を作成していきたい。

(委員) 何かあれば、直しやすさ、取替やすさ、復旧のしやすさなどが、重要だと思うが、考えているか。

(防衛) リスク評価する中で、どのライフラインにそのような機能を付与するかを検討する考えである。

(会長) 国土強靱化においては、起こしてはならない事態は頻度と関係なく想定をして、それを起こさないようにするという考え方がある。頻度が低くても致命傷となることは避けるべきである。

(防衛) そういった考えも検討してまいりたい。

以上